

B-62 糊剤のかびおよび細菌の影響について

愛知淑徳短大 ○栗原ひろ子
古田 幸子

1. 梅雨時の糊付け布, 夏期の糊液放置による腐敗等, 細菌, かびの栄養源となる糊剤に水分を与えた場合その繁殖はかなり早い時期に現われるものと思われ, その腐敗現象を観察した。尚腐敗を判定する因子についても検討した。

2. 前報同様デンプン系, セルロース系, 海藻系, アクリル系, ビニール系等糊剤を用い, 1%, 0.5% の糊液に調整し, 水蒸気蒸溜により揮発性酸量, 微量拡散法により揮発性塩基窒素量, ガラス電極により水素イオン濃度, 混釈法により生菌数を測定して経日変化を検討した。尚室内に放置した糊付布 1 cm×1 cm を 10 ml の滅菌水に浸漬させて Thermo-mixer で振盪, 抽出しその液 1 ml を希釈培養して生菌数を算出した。

3. 糊液の悪臭はかなり早く現われ, 3 日目にしてすでに小麦粉, ゼラチン等に腐敗現象が現われ, pH も下り粘度も低下している様に思われた。又フノリ, 小麦粉に揮発性塩基窒素量が同様多く検出された。pH 変化も天然糊料に著しく現われ, CMC, アルギン酸ソーダ, アクリル系糊では変化は殆んど認められなかった。生菌数は天然糊剤に多く算出されたが CMC 等にも認められた。尚揮発性塩基窒素量が腐敗を判定する因子に適している事が判明した。